

2021年12月22日 Vol.185

令和3年はIPOラッシュで師走のラストラン

今年1年間で125のIPO銘柄が出てくるというIPOラッシュ。特にこの12月は32銘柄が相次ぎ登場。その中でも今週は24銘柄、つまり年間のIPOの20%が出てくるという忙しさ。とりわけ今週末は7銘柄東証の鐘の音が響き渡る予定で休む暇もない状態となる。そこで憂慮されるのは需給。数多くのIPO銘柄の登場で既存市場はやや停滞気味ながらテーマ性を求めた気運が消化難の中で一気に高まりを見せ、リスクマネーは集中的に限定された銘柄に向かい、極端な二極化、一極集中の動きが見られる展開となってきた。

今週月曜日にIPOした前前号の本欄でも取り上げたことのあるAI関連の東大発ベンチャーJDSC(4418)の初値はわずか1円高の1681円だったが、その後はその日に2018円のストップ高買い気配で終えるなど人気化。その後短期の利益確定売りを消化しながら本日も大量の出来高を伴ってストップ高を演じており、今月のIPO銘柄の中では異色の株価変動が見られる。AIというテーマでの集中物色が続き明日の大型AI企業、エクサウィザーズ(4259)にバトンタッチされていく。それにしてもJDSCについては、せっかく上場前に手に入れた銘柄をたった1円高で売られた方もいらっしやる訳だから悔しい思いをされているのかも知れません。これも株式相場の現在の状況を示していると言えそうです。年末にかけてのIPOラッシュの前哨戦となったAI関連銘柄への一極集中が後半戦にどうつながるのか目が離せません。皆さんはこの動きをどう御覧になれていますか。このほかではIPO初日にストップ高を演じた在宅訪問薬局サービスのHYUGA PRIMARY CARE(7133)も本日再びストップ高。なかなか他のIPO銘柄や全体相場には波及しない展開の中であって局所的にもIPO市場に活気を取り戻せる原動力となるのか注目したい。

こうした動きは市場関係者の努力の賜物なのかも知れませんが、こうした株価変動によって投資家の関心が高まるとIPOの需給も好転するとの思惑も出てきそう。過去のIPO銘柄の多くは初値後の株価低迷に見舞われ、そうしたIPO銘柄を何らかの期待で保有されている投資家は投げるべきか持ち続けるべきかを自問自答されているものと推察される。思い切って投げた投資家はそのお金でまた直近のIPO銘柄に投資されるチャンスが生まれるのかも知れませんが、忘れ去られたIPO銘柄には見落とされた銘柄も多く、時期がくれば復活の陽の目が当たることもあると考えられるので、本コラムでも少し時間をかけながら銘柄研究して取り上げていきたいと考える。とりわけIPO後にいきなり只の低評価株になったような銘柄もあり、そうした銘柄の今後のIR活動にも注目したい。例えばのむら産業(7131)は包装関連銘柄で地味な印象が強く業績堅調ながら時価総額がわずか13億円に甘んじている。同社は今週金曜日にオンライン説明会を開催予定。株式市場はIPOラッシュのなかで師走のラストランとなるがいずれのIPO企業やそれに立ち向かう投資家の皆さんの発展と運用成果を願うばかりだ。(東京IPOコラムニスト 松尾範久)